

“環 ぱ い” って？



守る・育て・伝える
環ぱいからのメッセージ!!

NPO 法人
環境パートナーシップいわて 代表
わたなべ あきこ
渡邊 彰子

岩手には緑豊かな山々、母なる川、きらめく海など自然が多く残されています。

私たちには、この豊かな自然環境を守り育て将来の世代に引き継いでいく大きな使命があります。

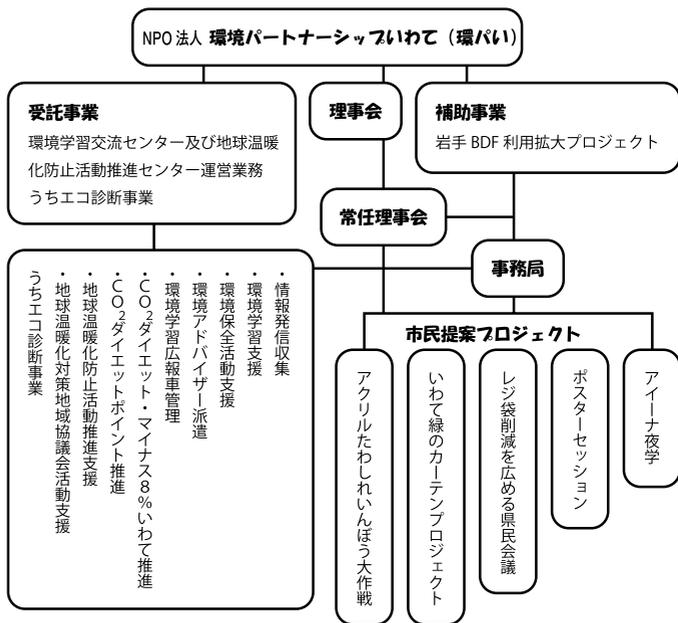
しかし3.11の震災を機に、身近な環境から地球規模の環境までさまざまな問題が表面化してきております。その解決を図るためには前例にならうのではなく、法律に縛られるのではなく、柔軟な発想の展開と積極的な動きのみえる対応が求められています。自治体・県・国の連携で速やかな生活の安定を望むところです。

今回の災害は被災者のみならず、私たち自身への教訓でもあり、この未曾有の危機をどう乗り越えるか今こそ私たちの行動が試されています。

設立経緯

今日の問題の多くは、私たちの日常生活や事業活動に起因しており、加害者であると同時に被害者にもなっています。そのため、一人ひとりが環境を意識し、環境への負担が少ないライフスタイルを定着させ、自然環境の保全を図りながら、持続可能な地域社会を築いていく必要があります。

私たちはこのような地域社会の実現のために、県民・事業者・市民団体・行政・研究者などが対等なパートナーシップのもとに積極的に行動し、環境に関するさまざまな交流や活動を行うネットワークを作り上げていくことが大切と考え、2002年に任意団体として「環境パートナーシップいわて」を設立し、2004年には特定非営利活動法人になり現在に至っています。



環パいの取り組み

環パいの事業は大きく分けて、受託事業と自主事業の二つになります。ここでは、紙面の関係から、自主事業の中でも特に力を入れている、市民提案プロジェクトについて、その様子を写真でみていただくことにしたいと思います。

アクリルたわし講座



被災地でアクリル毛糸からたわしを作るアクリルたわし講座を開催したときの様子です。

いわて緑のカーテンプロジェクトと題し、ごーやーの苗です。これを申請されたみなさんにお配りしています。



被災地で緑のカーテン

マイバック講座



レジ袋を広める県民会議で、マイバック講座を開催し、端切れてマイバックを手作りしています。

岩手は広いので会員同士の交流もなかなか大変です。そのため、会員相互の親睦と情報活動の交流を図ることからも、地域活動の活性化を目指しています。

そういった矢先に、びっくりエコ 100 選からお話が届きました。

京都発！ “びっくり！エコ 100 選”！！ 京都と岩手をつなぐ！！



▲ 岩泉町の子どもたち



▲ 大槌町の子どもたち

一本の線を引いた巻物を準備し京都の子どもたちが絵やメッセージを描き被災地の子どもたちへとつなごうというものです。京都から東京まで自転車で行った事をネットで知り感激いたしました。同じく岩手の子どもたちからも京都の子どもたちにつなげる事が出来ました。

8月にはびっくりエコ 100 選会場（高島屋）に何とか間に合い大槌町の白澤さん、岩泉町の泉山さんにはお忙しい合間を縫いで協力いただいたことに感謝でございます。

大槌町・岩泉町の子どもたちは展示会場を見ておりません！機会があれば絵巻の展示を岩手で再現できないものかと思索しております。

白澤さんは、「これからが本番です！！」と言葉少なげに話されました。環パいは、復興支援遠野ネットワーク組織として動いております。組織で出来ることを最大限活用し、必要な事（もの）を必要な時に必要な場所に支援をしていきたいと思っております。

さてチャリティオークションで集まったお金の一部は遠足費用として被災地の子どもたちにプレゼントされる予定（大槌町は冬の京都、岩泉町は盛岡界隈を希望と聞いております）だそうです。

浅利先生はじめ実行委員の皆様、びっくりエコで岩手と京都をつないでいただきありがとうございました。（関連記事：本誌 p.78 学会コラボレーション）